

都内の自転車事故の現状 ＜統計データ＞

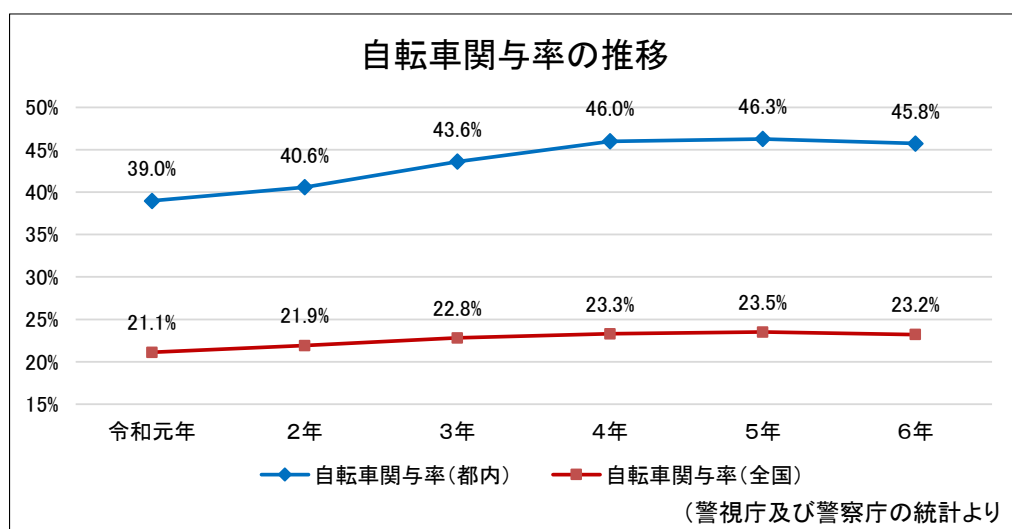
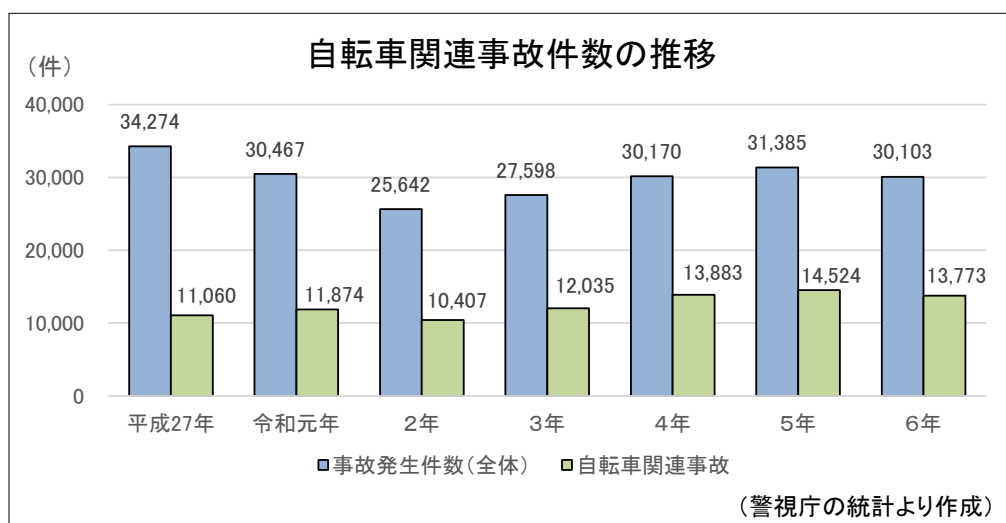
ア 自転車の交通事故の状況

(ア) 自転車関連事故

自転車が第1当事者又は第2当事者として関与した事故（以下、「自転車関連事故」という。）の発生件数は、令和2年には10,407件でしたが、令和6年には13,773件に増加しました。

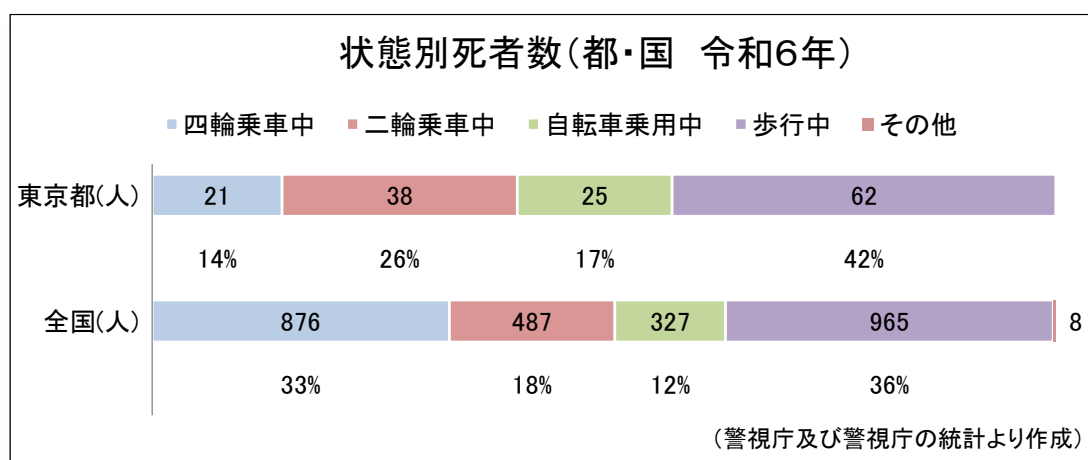
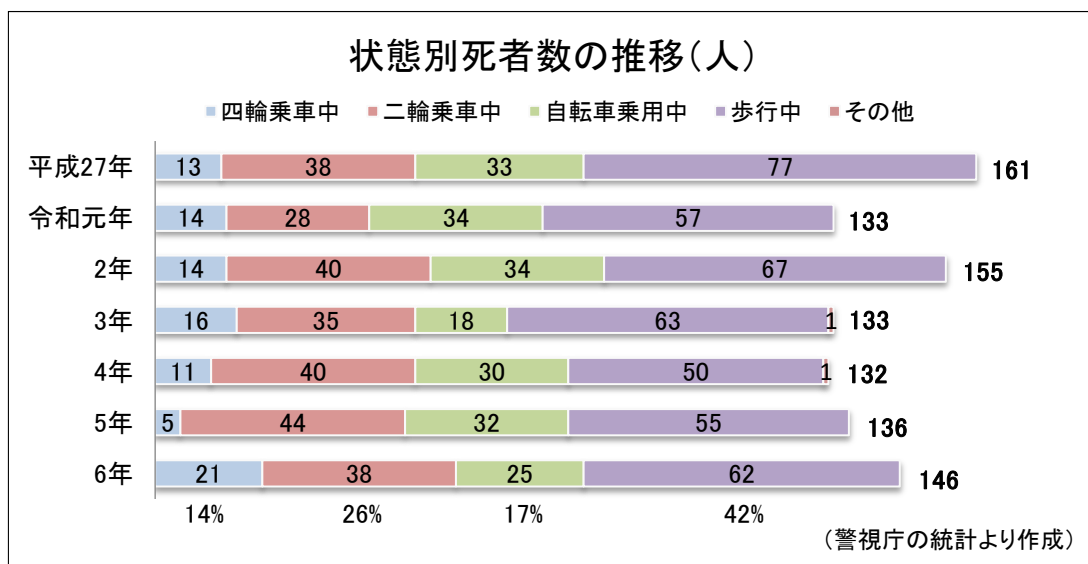
また、自転車関連事故が全事故に占める割合（自転車関与率）は、令和6年において45.8%となっており、近年は横ばい傾向にあります。また、全国平均の23.2%と比べても高くなっています。

*「自転車関連事故」は、自転車乗用者が第1又は第2当事者となった事故件数であり、自転車相互事故は1件として計上する。



(イ) 自転車乗用中の死者数

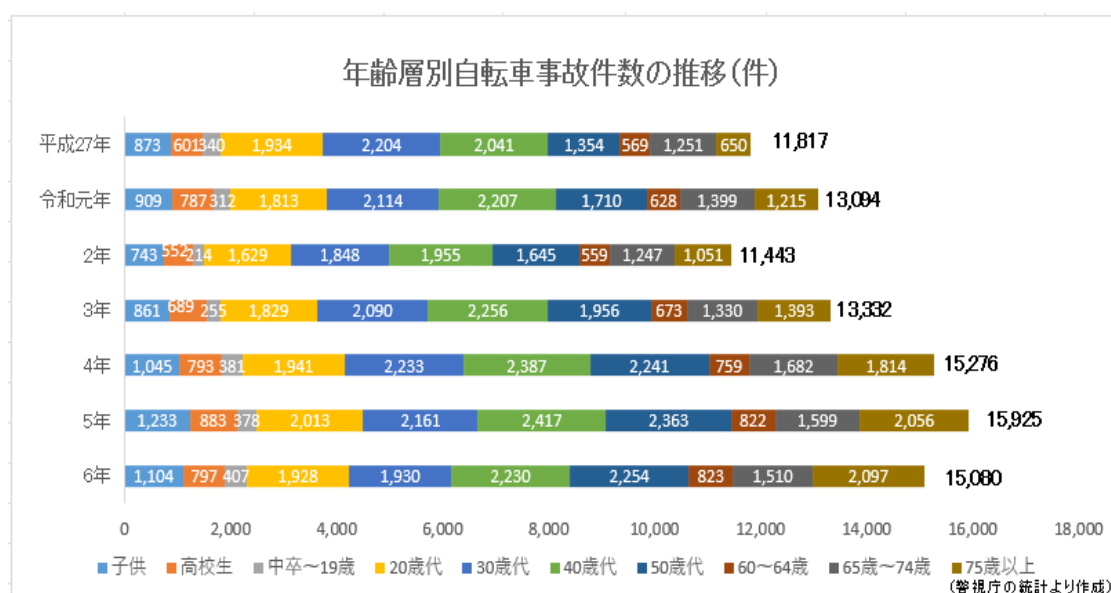
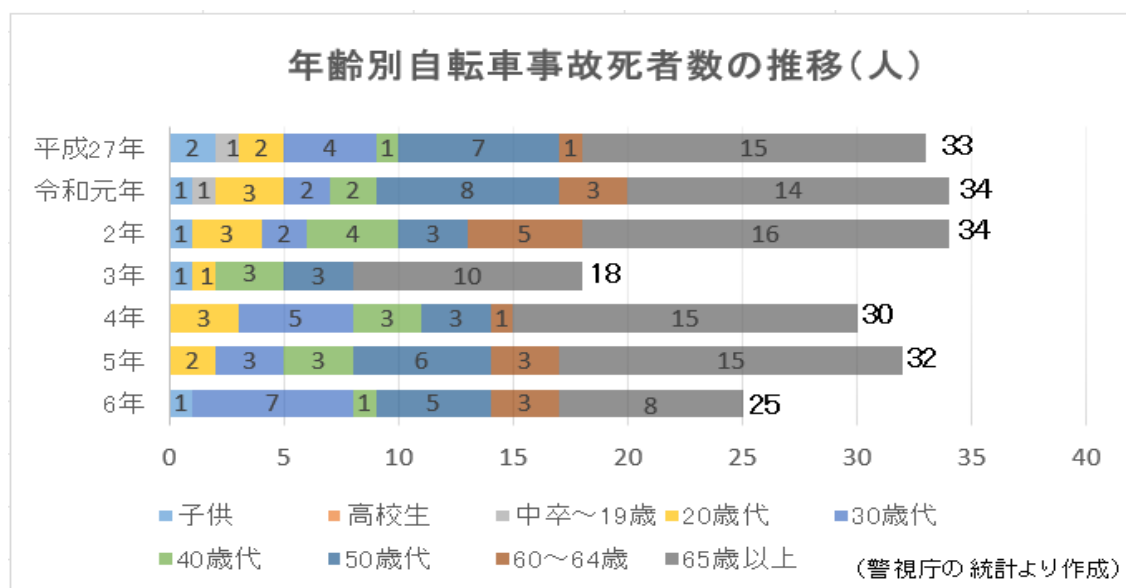
自転車乗用中の死者数は、令和2年の34人から令和6年の25人に減少しましたが、近年は横ばいの傾向です。また、都内の交通事故による死者に占める割合は約2割となっており、全国と比較すると、高い割合となっています。

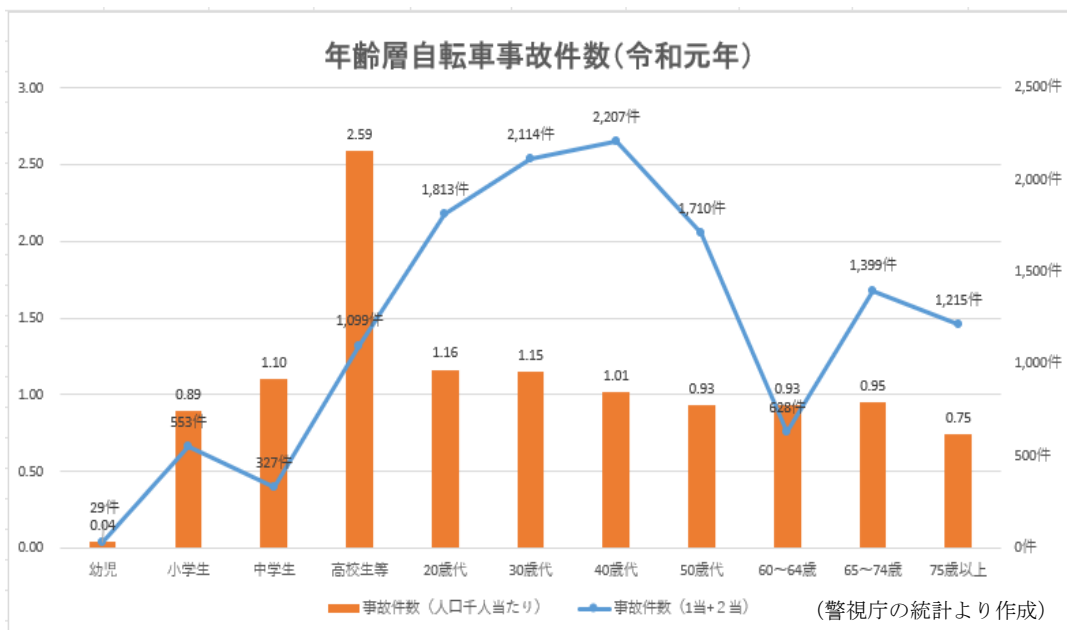
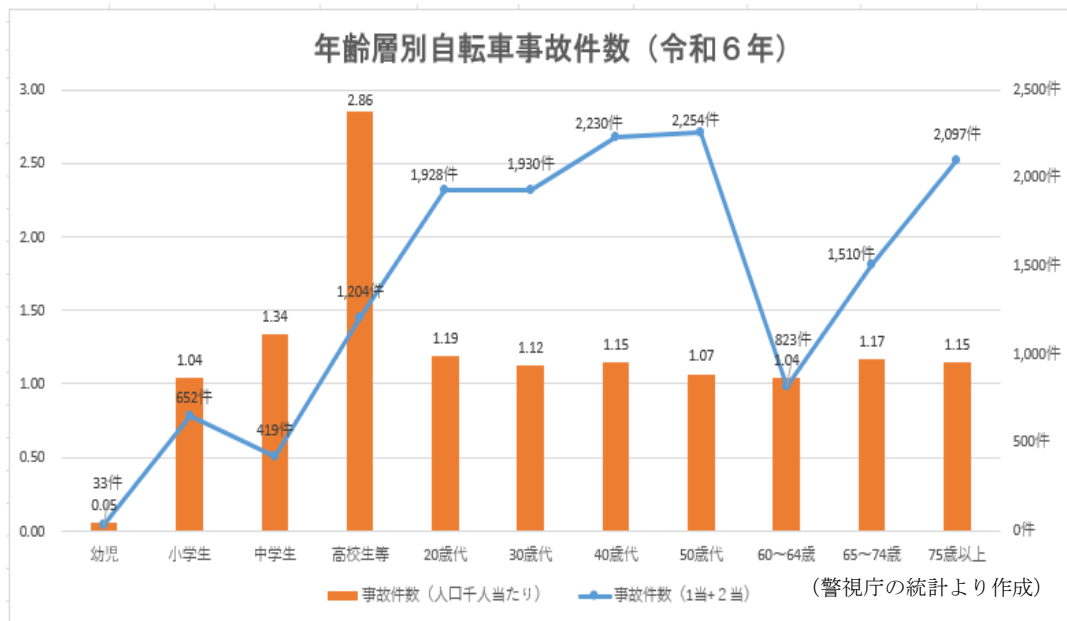


(7) 年齢層別の自転車乗用中の死者数及び自転車事故件数

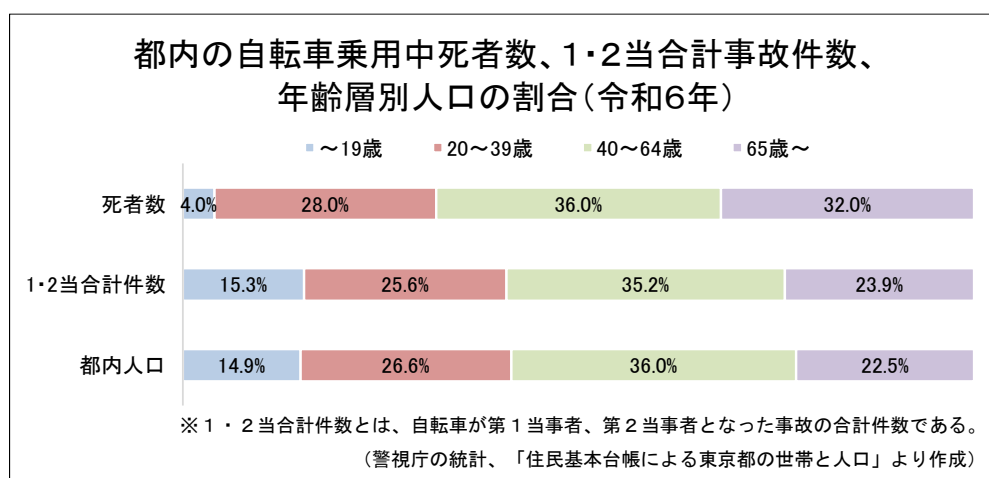
年齢層別の自転車乗用中死者は、高齢者が最も多いですが、30歳代の死者数も増加しています。年齢層別の自転車事故件数は、50歳代以上で増加傾向が強く、特に75歳以上の発生件数の増加が顕著です。子供や高校生においても増加傾向が見られます。

また、令和6年の千人当たりの自転車事故件数では、高校生等(中卒～19歳を含む)の事故件数が突出して高くなっています。5年前の令和元年の千人当たりの自転車事故件数でも、同じ傾向が見られます。



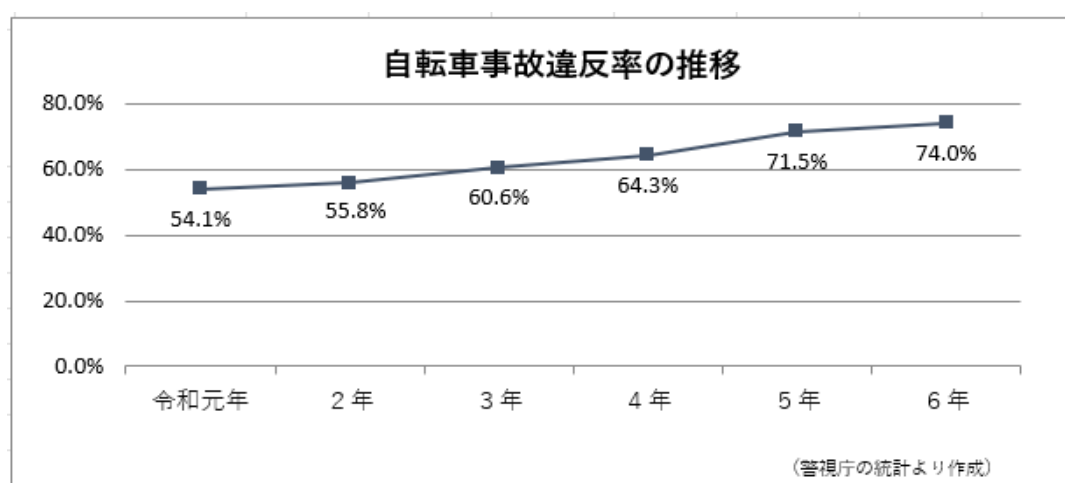


令和6年の自転車乗用中の死者数では、40歳から64歳までが36.0%、65歳以上の高齢者が32.0%と高い割合を占めています。また、自転車が第1当事者、第2当事者となった事故の合計件数では、40歳から64歳までが35.2%と一番高い割合を占めています。

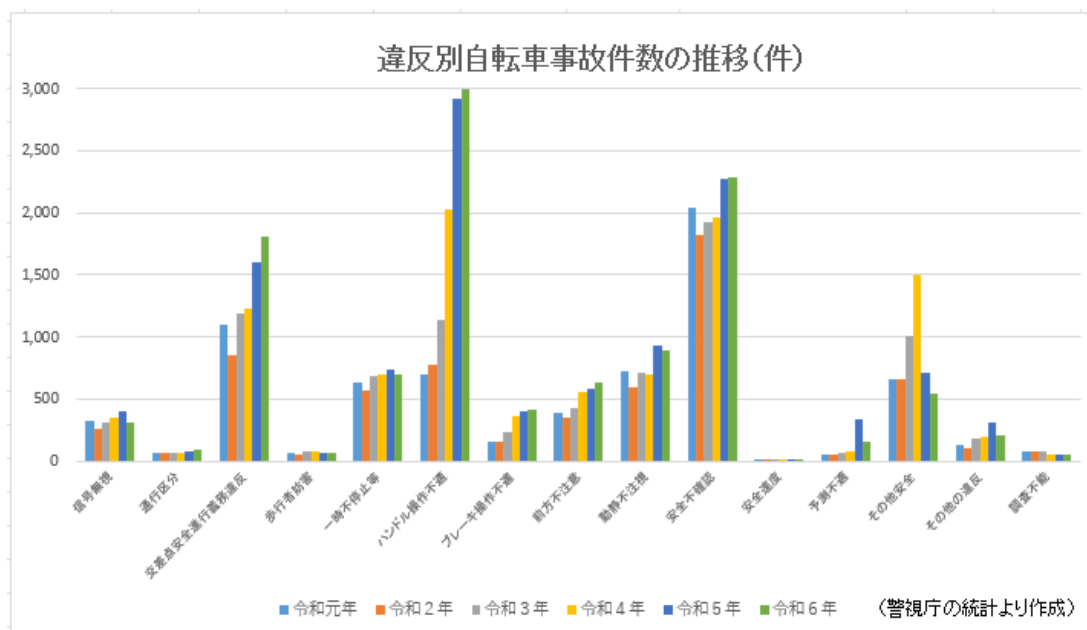


(エ) 自転車の違反状況

自転車が第1当事者、第2当事者となった事故の合計件数のうち、自転車側に信号無視など何らかの違反があった割合は、7割を超え、増加傾向にあります。

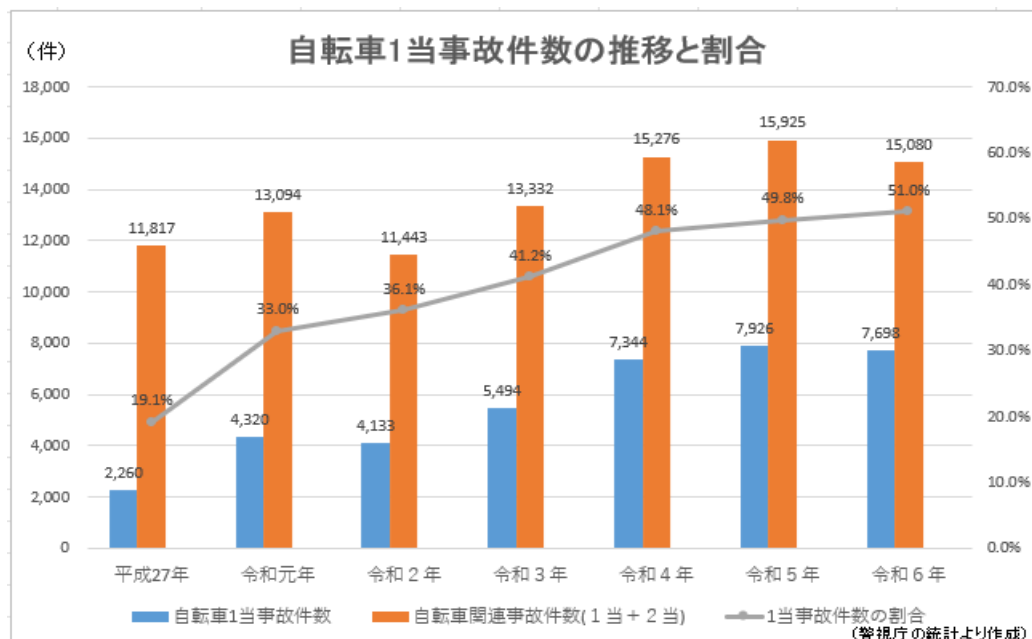


自転車事故のうち、違反項目として最も増加傾向が強いのは、「安全運転義務違反」のうち、「ハンドル操作不適」です。その他、「交差点での安全進行義務違反」、「安全不確認」の違反が多い状況です。



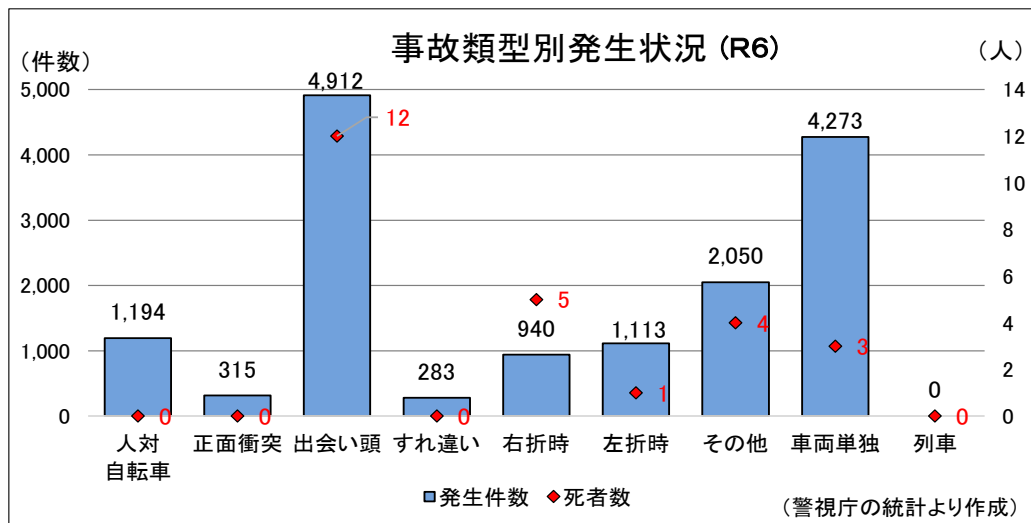
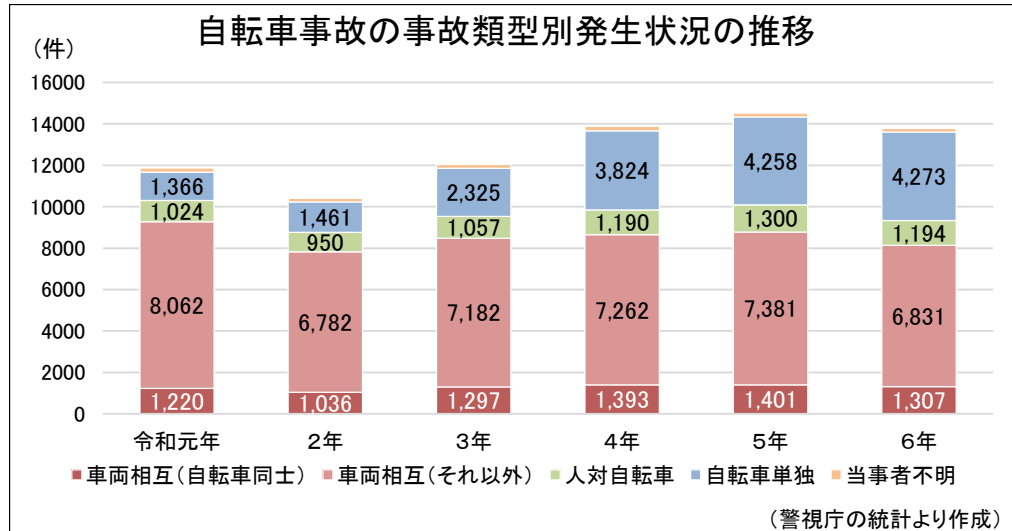
(オ) 自転車第1当事者となる事故の発生状況

自転車の事故件数は増加傾向にありますが、それと同時に、自転車第1当事者となる事故の件数も増加傾向にあり、令和6年は51.0%と全体の半数を超えている状況です。



(カ) 事故類型別の自転車事故発生状況

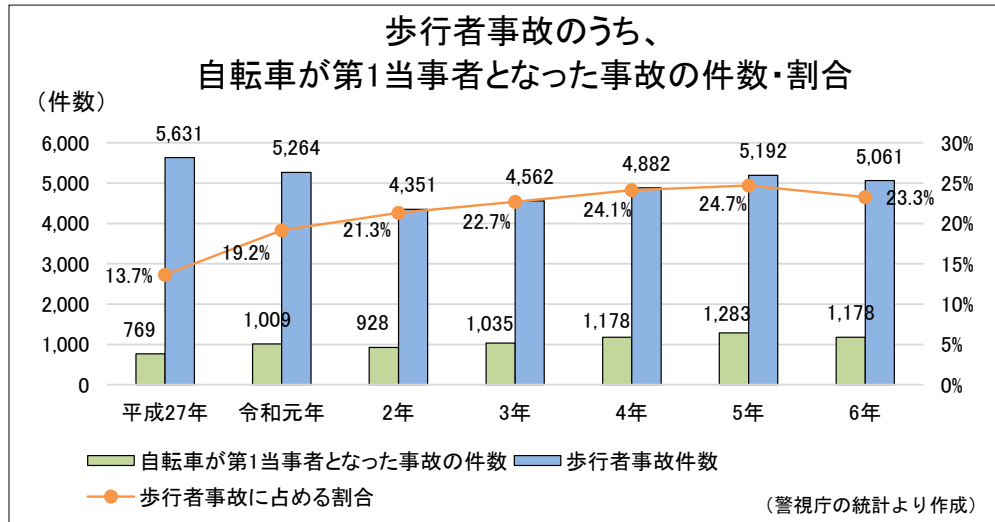
自転車事故を事故類型別でみると、令和元年以降、自転車単独事故が増加し、令和6年は令和元年に比べて2倍以上となっています。また、令和6年は、「車両相互」の「出会い頭」の事故が最も多く、発生件数が4,912件、死者数が12人となっています。



※正面衝突、出会い頭、すれ違い、右折時、左折時、その他は、車両相互の事故の内訳を指す。

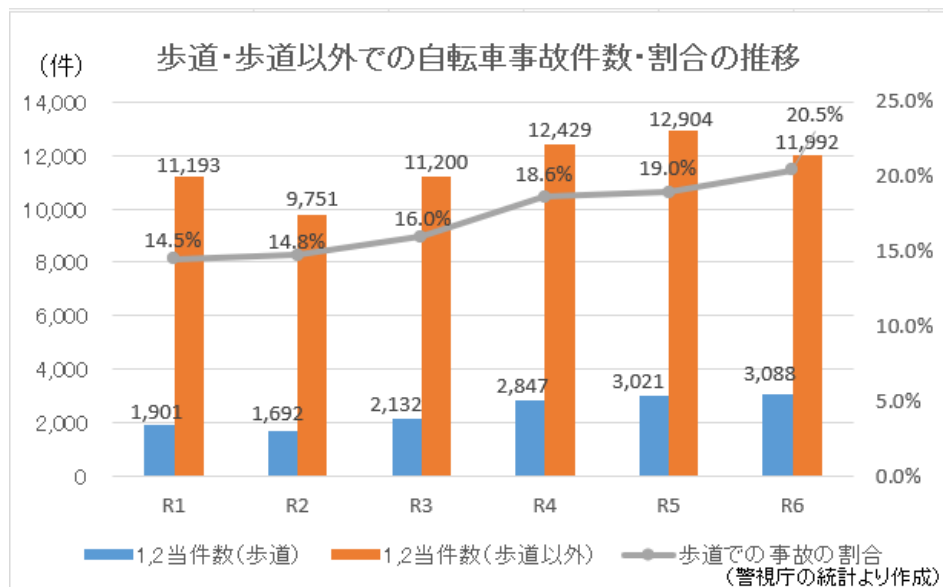
(キ) 歩行者との事故との関連

歩行者の事故のうち、自転車が第1当事者となった事故の件数及び割合は、令和5年まで増加傾向で推移していましたが、令和6年に減少に転じています。



(ク) 歩道・歩道以外での自転車事故について

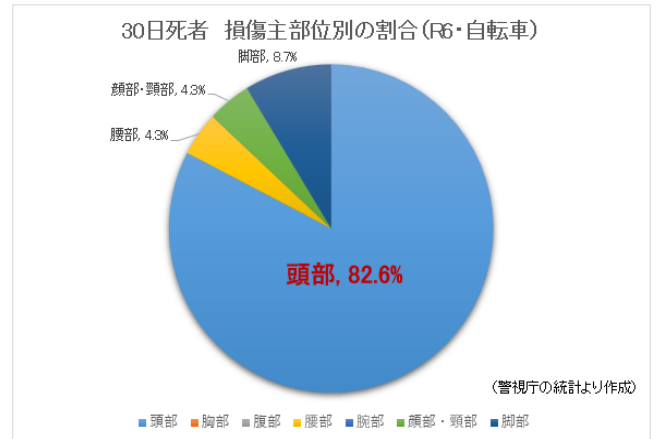
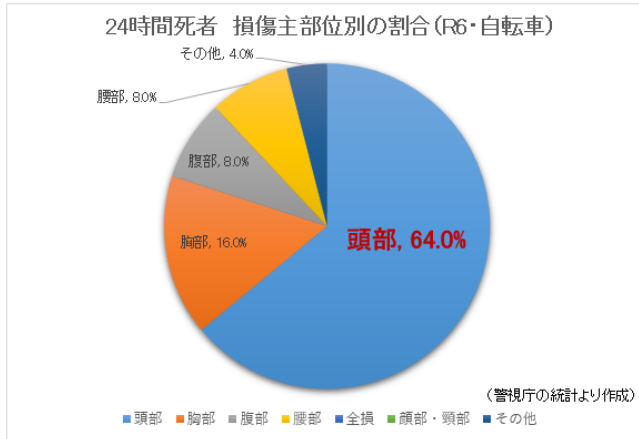
自転車事故の多くは歩道以外で発生しておりますが、歩道で発生した事故の割合は増加傾向になっています。



(ケ) 損傷主部位別死者の割合

自転車事故による死者のうち、約6割が頭部損傷が主因となっています。

30日死者においては、頭部損傷が主因となる割合は8割を超えています。



頭部を損傷した場合、事故直後だけではなく、事故発生日から30日以内に亡くなる割合が高くなっています。ヘルメットを着用し、頭部を保護することが重要です。

